

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600717	事業の開始年月日	平成16年3月1日		
		指定年月日	平成16年3月1日		
法人名	社会福祉法人 幸済会				
事業所名	高齢者グループホーム かわしまの園				
所在地	(〒240-0041) 横浜市保土ヶ谷区東川島町14-2				
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護		登録定員	名	
			通い定員	名	
			宿泊定員	名	
		☒ 認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名
			ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年12月16日		評価結果 市町村受理日		令和7年8月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・近接する診療所の医師である法人理事長が主治医となり、毎日の健康状態報告と、体調変化時の速やかな受診・往診体制ができています。
・地域との交流を大事にしており、町内の定期清掃や行事への参加、職員による小学生下校見守り活動を行っている。また、避難訓練時は地域の方にもご参加いただき、災害時の協力体制についても相談している。
・法人主催の夏祭りや外出レクの参加、事業所内でも毎月行事を行ったり季節ごとの飾り付けを行い、季節を感じていただく工夫をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和7年1月10日	評価機関 評価決定日	令和7年5月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 当事業所は相鉄線西谷駅から10分ほどの住宅街に立地している。木造2階建て、2ユニットのグループホームである。認知症対応型通所介護事業所と短期入所生活介護事業所を併設しており、利用者と交流している。事業所の隣には、同法人の小規模多機能型居宅事業所、通りの向いには法人母体で協力医療機関の東川島診療所がある。同法人は特別養護老人ホームや地域ケアプラザを運営しており、行事や研修、災害対策など密接な連携を図っている。 【利用者と地域とのつながりの継続】 利用者は、川島地域ケアプラザのイベントに参加したり、買い物に行っている。また事業所で飼っているセラピー犬の散歩に毎日出掛けている。散歩の際には、近隣の方が声を掛けてくれて、犬を通じて、会話が広がっている。車椅子の利用者も近隣まで散歩に行っている。小学校の下校時の見守りを週2回行っている。選挙(投票)へ行く利用者や、馴染みの美容院へ行く利用者の支援をしている。 【医療の充実した健康管理】 法人の理事長は東川島診療所の医師で、利用者の主治医でもある。毎日、診療所に利用者の様子を報告し、体調変化があれば受診できる。訪問看護師も週1回来所して利用者の様子を診ている。利用者は全員、歯科医の訪問診療を毎週受診している。歯科衛生士も月に1回来所している。2か月に1回、他法人の理学療法士が、生活リハビリの為に訪れて、利用者の健康管理を行っている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	かわしまの園
ユニット名	いちよう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人運営理念を事業所にあてはめて共有している	法人理念は「温かい心・冷たい頭・優れた技能」を事業所の玄関、廊下、階段踊り場に掲示している。毎朝申し送り時に唱和し、職員に周知している。理念に沿って、温かな気持ちを持って支援することで、利用者の笑顔を引き出している。またどんな時でも冷静に行動することを心がけ、介護を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお知らせをもらい、地域の行事や定期清掃等に参加している	川島第四町内会に加入している。週2回小学校下校時の見守りを利用者と一緒に行い、町内会のさわやか清掃にも参加している。夏祭りでは、子どもみこしが訪れている。また事業所を休憩所として提供し、飲み物やお菓子を配っている。お正月には獅子舞も訪れ、健康祈願をしてもらい、利用者に喜ばれている。事業所の防災訓練には地域住民の参加があるなど、地域との協力体制ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方の相談を受け助言をしている。必要に応じてサービスの利用もすすめている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて意見交換を行い、運営に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。町内会副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員、管理者をメンバーとしている。家族は希望者の方が参加している。今後は家族全員に向けた案内送付を検討している。運営推進会議時に避難訓練を行った際、事業所の周りに落ち葉があり、放火の危険があるので定期的に清掃をするようにという助言を受けて、清掃を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年1回区が主催の多職種連携会議に参加し、情報交換や交流を図っている	保土ヶ谷区高齢者障害支援課には運営推進会議の議事録を送付している。生活保護費を受給している利用者や申請検討の利用者がいるため、生活支援課へ相談をしている。グループホーム連絡会に出席して事業所の情報交換を行っている。区の多種職連携会議に年1回参加し、情報交換をしている。防災や身体拘束・虐待防止の研修にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的な委員会の開催・研修の実施。玄関の施錠は安全確保のため継続し、利用者の要望に沿って職員と一緒に外出している	身体拘束適正委員会を3か月に1回開催し、議事録を作成している。身体的拘束等の適正化のための指針や身体拘束排除の理念もある。身体拘束をしないケアの研修を行い、テキストを全職員に配布して振り返りを行っている。外出希望の利用者には一緒に買い物に出掛けたり、自動販売機で飲み物を購入するなどの支援を行っている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回の職員研修の開催、デイサービス利用者の家庭環境についてはケアマネジャーへ適宜連絡し共有している	虐待防止委員会を3か月に1回開催し、議事録を作成している。高齢者虐待防止に関する指針がある。虐待の芽チェックを行い、結果をフィードバックしている。スピーチロック等あった場合はその場で管理者が注意をし、事例を上げて会議時に話をしている。通所介護利用者の家族との関わりがあるため、接遇に配慮している。虐待研修は年1回行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修で学び、必要であれば市町村とも連携して活用している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・年1回の更新時に行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の家族アンケート・面会時や行事の際にご家族の要望を伺っている	家族の意見や要望は、面会時や電話で聞いている。法人のお祭りに参加された家族には、その際に話を聞いている。面会は、感染対策のため、予約制、居室で15分間としている。利用者の様子は、毎月請求書送付時に職員が書いた手紙と写真を同封している。看取り期となった利用者から、主治医の意見も踏まえて緩和ケアに移る要望があった。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に社員・フロアミーティングを行うも、ここ最近は行っていない 管理者が 随時職員と個別面談したり、普段のコミュニケーションの中で意見や要望を聞いている	職員の意見は面談や全体会議、カンファレンス時に聞いている。管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に、話を聞く機会を作っている。職員からは、レクリエーションの企画書作りや、「予算内で、おやつに季節の果物を提供したらどうか」との提案があり、取り入れている。家族や職員からの意見は申し送りノートで職員に周知している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表に随時運営状況の報告と、職員の勤務状況を報告している 忘年会 や賞与等があり、モチベーションにつながる	人事考課の面談は行っていないが、管理者は、職員とコミュニケーションを図り、職員の実績を把握して、法人にも報告している。年1回の昇給の機会がある。ストレスチェックは年1回、健康診断はパートも含め年1回、夜勤者は2回行っている。産業医の受診も出来る。通所介護の送迎添乗の際には残業となっていた為、シフトの時間枠を1枠増やして対応した結果、残業が減少した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講や介護福祉士試験の援助・法人内外の研修の参加	法人からは、介護福祉士取得時の受験料、講座受講料、交通費や外部研修時の研修費、交通費が全額支給される。介護福祉士や介護支援専門員に資格手当がある。法人の勉強会が年間で設定されており、月1回、実施している。毎月の勉強会では研修を受講した職員が講師になり伝達研修を行っている。OJTは職員の習熟度に合わせ事業所で行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会主催の研修や職員交換研修への参加		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の面談 デ イサービス・ショートステイ利用を活用し、本人との信頼関係づくりを行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の十分な面談と開始後の連絡の実施 ご家族の要望に応じて毎日利用者と電話で話してもらう機会をつくっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談アセスメントの段階で、施設入所の時期の検討や他サービスの利用も選択肢のひとつとしてお話している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いや利用者様同士の関わり、犬の世話、嚥下体操の司会などできる範囲で役割をもって生活してもらう		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一時帰宅やご家族との外出の実施・本人の好きな物の差し入れをして頂く		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への電話や年賀状のやりとり、友人との面会等の交流の支援	馴染みの関係は入居時のアセスメントや家族からの情報から得ている。電話の取次ぎや年賀状書きなどの支援をしている。携帯電話を持参して家族と話をしている利用者がいる。3年ぶりに友人が面会に訪れ、喜ぶ利用者がいた。家族と外泊したり、お墓参りや、馴染みの美容院に行く利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って利用者同士の交流を促し、共同で家事手伝いしてもらうようお願いしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自施設から特養や病院に移ったあとも、家族への連絡や先方への情報提供に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出や買い物など、本人からの意向を職員が聞き取り支援している	利用者の思いは日常の会話の中で把握している。聞き取った内容は申し送りノートに記載し職員間で共有している。意思疎通が困難な方は二択から選択してもらったり、表情から推し量っている。一緒に買い物に行き、好きなお菓子やパンの好みを聞いて、選んでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前のご家族との面談で聞き取りしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやミーティングで職員間で共有をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング	本人家族の意向をふまえ、主治医や理学療法士のアドバイスを聞きながら、定期的に作成している	介護計画書は、計画作成者が本人や家族から意向や課題を聞き作成している。サービス担当者会議で、医師、訪問看護師や居室担当職員からの意見を聞き、介護計画モニタリング評価シートに記載して、介護計画に反映している。長期6か月、短期3か月で見直ししている。介護日誌に実施した介護計画のサービス内容番号を記載して連動させている。職員は日々介護計画を意識し介護を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・申し送りノートにて行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前のデイサービス利用や短期利用への対応、通院同行や墓参り同行を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のコンビニや商店街での買い物、地域ケアプラザ等での行事の参加・作品展示など		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との緊密な情報共有を行い、必要に応じて専門医への受診の実施	利用者全員が、同法人の医療機関の内科医の訪問診療を月に2回、受診している。毎日、変化のある利用者の情報を医師にFAXで報告している。訪問看護師は週1回来所しており、訪問前に、利用者の様子を記載した「訪問看護事前報告書」を送付し、看護師は協力医に報告のうえ、処置の指示を仰いでいる。歯科衛生士が月1回来所し、全員の口腔ケアと歯磨き指導を行っている。皮膚科や眼科など他科への受診は職員が付き添っている。2か月に1回、理学療法士が来所し、身体の動きの確認と体操の助言をしている。往診情報はケア記録に記載している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の利用者の情報報告と、訪問看護時の直接相談の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に協力病院の相談室職員と情報交換を行っている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族との面談で説明し、本人の状態に応じて随時話し合いを行っている	入居時に「看取りに関する指針」「看取り介護に係る指針」「終末期に関する意思確認」を説明し同意を得ている。意思の変更はいつでも可能である。ターミナルケアマニュアルがある。終末期には医師の意向を伝え、管理者と家族とで話し合い、療養型事業所や同法人の介護老人福祉施設などへ移る利用者もいる。今年は、看取りの実績はないが、看取りがあった場合には看取り研修を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の実施		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震想定での避難訓練を行っている。洪水時の訓練は行えておらず	火災想定で年2回、避難訓練を行っている。また6月には、利用者も参加して、地震想定での避難訓練を行った。訓練には、地域の方も参加している。消防署から夜間はベランダを通り1階へ避難するように助言があった。災害時は法人の老人福祉施設への避難が出来る。備蓄品は職員分も含め5日分を用意している。コンロ、カセットボンベなども備えている。BCPは策定している。	備蓄品が廊下であり、利用者の歩行時に危険であるため、整理されることを望みます。また備蓄品のリストを見やすく、消費期限の記載をして、安全で災害時に素早く取り出せる体制作りを期待いたします。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスマナーや個人情報保護の研修を行い、相手に不快を与えない対応を心がけている	職員はプライバシー保護の研修を受講している。トイレ誘導時は小声で声掛けしている。自立の利用者には居室で排便の有無を聞いている。居室の表札は、花の名前になっている。利用者の呼称は名字に「さん」付けとしている。ケア記録の記載時は利用者の見えない所で行っている。パソコンは個人のパスワードを使用している。個人情報は鍵の掛かるキャビネットで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で職員が本人の希望を聞きながら対応している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どんな場面でも利用者様の意向を伺い、本人のペースに合わせて過ごしていただく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕の身だしなみはご自身で行える方は行っていただく、洋服と一緒に購入しに行くなどの支援		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食後の片づけと一緒に、行ったり、特別食や誕生日のケーキ、お菓子作りなど一緒に作ったり飾りつけすることで楽しみにつなげている	ご飯、味噌汁は職員が調理し、副食は業者から届く食材を湯せんして提供している。流しそうめん、ちらし寿司、ピザなどの行事食を提供し、喜ばれている。調理レクリエーションがあり、利用者と職員と一緒に、サンドウィッチを作ったり、お誕生日にはスポンジケーキに飾つけをしている。利用者はお盆や食器・テーブル拭きなど出来る事を手伝っている。リビングには除菌されたおしぼりが用意され、手を拭いたり、テーブル拭きにも使っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫 水分量が少ない方の栄養補助飲料の提供や補食の提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがい・入れ歯洗浄の実施		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的に日中はトイレに案内し、必要に応じて職員二人介助にて対応している	排泄表で排泄パターンを把握し、定時誘導や個々の排泄サイクルに合わせて声掛けを行なっている。自立でトイレに行ける利用者が2名いる。夜間は睡眠優先で、個々に合わせ誘導している。夜間のみオムツを使用している利用者がいる。夜間ポータブルトイレを使用している利用者が5～6名いる。布パンツを使用時に、失禁が多く清潔が保たれていない利用者がリハビリパンツを使用することで皮膚トラブルがなくなった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時のみでなく、こまめな水分補給の声掛け・提供、体操レク時に便秘解消の体操の実施、便秘になりやすい方にはヨーグルト等を提供し、薬に頼らない便秘解消を行う		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	以前は曜日を決めていなかったが、それにより入浴回数にばらつきが出ていた為入浴の曜日は決めつつ、それ以外でも要望があれば対応をしている	入浴は週2回を基本としているが、本人の要望があれば3回の対応をしている。入浴を好まない利用者には、日にちや時間、声掛けの職員を変えて対応している。好みのシャンプーを使用している利用者がいる。入浴後は持参のクリームを塗っている。入浴剤やゆずを使って気分を変えている。脱衣室にヒーター、浴室には暖房があり、ヒートショック対策を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室にはベッド・タンス等の持ち込みを行い、他にもご自身が使い慣れているものを持ち込み、安心して過ごせる居室環境を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理を行い、服薬後の本人の観察、主治医・看護師へのこまめな報告の実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲での役割作り　ご本人の好きな事、犬の世話や編み物・塗り絵・歌などを個々で行う		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	自販機やコンビニまでの外出支援・近所の散歩や花見、行事の参加、ご家族との外出	セラピー犬を飼っていて毎日散歩に行っている。車椅子の利用者も散歩に行っている。コンビニエンスストアで買い物や自動販売機で飲み物の購入をしている。利用者と職員で作成した季節の飾りが川島地域ケアプラザで展示され、見学に行っている。お花見ドライブに行っていて楽しんだ。利用者が選挙（投票）へ行く際には、支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方には定期的にお小遣いをお渡しし、ご自分でやりくりされている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人への電話や年賀状など		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけ 玄関前のプランターで花の飼育	リビングは広く窓も大きく日当たりが良い。窓からイチョウの木が見えて、秋には室内からもみじ狩りをしている。車椅子の動線も確保されている。廊下は回廊式になっており、キッチンも対面式のため見守りができる。空気清浄加湿器とエアコンで温度調節をしている。セラピー犬を飼っていて、利用者は水をあげたり、ゲージの掃除をしている。季節の飾りを作成し壁に展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイルーム内にソファールを設置することで、椅子とは違った座り心地でゆったり過ごす時間や、一人になれる配置		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの家具やリネンの使用、家族の写真を飾るなど	居室では、テレビを見たり本を読んだり、昼寝をするなど、思い思いに過ごしている。居室の表札は花の名前になっている。クローゼット、照明、防災カーテン、エアコンが備え付けてある。自宅からは使い慣れたベッドやダンス、仏壇、テレビを持ち込んでいる。家族の写真や誕生日の色紙を飾ったり、ぬいぐるみなど置いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃から階段を利用することで下肢筋力の維持をしたり、回廊式の廊下を歩くことで運動にもなり、自立した生活につながっている		

目標達成計画

事業所名

高槻市高齢者ケアセンター 介護福祉の館

作成日

令和7年7月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	46 35	施設内の備品置き場が なく、非常時の物品等が 廊下にある状況。	施設内の物品、備品を 整理を行い、収納 棚を作成する。 廊下の収納物の整理。	・収納棚の作成 ・収納場所の整理	1ヶ月～2ヶ月
2	6 7	身体拘束、虐待防止の 研修がしっかりと行われて (日程どおりに行えず、 期間が近付いてくる)	年二回の研修を日程 どおりに実施する。	・日程どおりの研修 ・資料と更新しての 研修の開催	3ヶ月
3	40	季節にあわせた取り組み	季節の行事について 行事の開催	・季節のエクシエーション (作成や食事の提供)	1ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。